

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
保育実習Ⅲ Application of Day Care for Children Ⅲ		2年	集中	該当年次の8月に実施
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	実験実習		選択 (保育士養成課程選択必修)	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
保育実習指導Ⅰ、保育実習Ⅰ (保育所)				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
保育実習指導Ⅲ				
担当に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
大塚登	本館2階	火・水・木・金の9時から17時		授業中に指示します
授業の概要				
児童福祉施設等において、特別な支援を要する子どもたちと生活する中で気持ちを理解するとともに、児童福祉施設等の機能と保育士の仕事を理解する。その中で、保護者の願いも学ぶ。				
授業の到達目標				
①保育実習Ⅰ及びすでに学習した保育、児童福祉施設に関する教科の知識や技術を基礎として、児童福祉施設等での保育を実践できるようにする。 ②目的意識とそれぞれの個性を生かした課題を持って、実習に臨み実習施設より努力が認められる評価をいただくようにする。 ③子どもの発達と個人差や家庭環境の違いにも目を向けた保育活動を目指すようにする。				
授業の方法				
児童福祉施設等の必要性と保育の実践方法を考えながら、児童福祉施設等にて11日間 (実習時間90時間以上) の実習を行う。実習施設によっては土曜日・日曜日の実習や行事、遠足などにも参加する。子どもの発達と個人差や家庭環境の違いにも目を向けた保育活動を目指す。				
学習の成果				
①児童福祉施設等の機能と役割を知り、地域社会における子育て支援について理解することができる。 ②子どもと積極的にかかわり、特別に支援すべき内容を自ら考え実践することで、保育技術の向上に向けて努力する力をつけることができる。 ③特別な支援を要する子ども理解が深まり、保護者支援についても学ぶことができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	《保育実習の意義・内容・方法を再確認し、各自が決めた実習施設での実習準備をする》			
第2回目	1, 実習担当と相談して実習園を各自が決める。			
第3回目	2, 実習に向けて課題を設定し、それぞれ実習準備を進める。			
第4回目	3, 実習オリエンテーションを組んでいただき、諸注意を再確認し、それぞれの施設の考えに基づいた実習準備をする。			
第5回目	《支援全般に参加し保育技術を習得する》			
第6回目	1, 見学の視点に基づき、支援の実態を理解しようとする。			

第7回目	・施設の沿革や支援方針を知る。 ・特別な支援を要する子どもの実態について知る。 ・施設的环境を知る。	
第8回目	・1日の支援の流れを知る。 ・地域環境について知る。 ・保護者の願いについて知る。	
第9回目	2, 参加実習の視点に基づき実習し、自分の「支援観」を見出す。	
第10回目	・施設の支援方針や支援計画を理解し、準備を手伝いながら支援法を学ぶ。 支援のねらいを理解し、教材研究・準備を手伝う。	
第11回目	・子どもの活動を注意深くとらえ、保育士の支援の仕方を学ぶ。 ・子どもが降園後の保育士の仕事を理解し、積極的に手伝う。	
第12回目	・保護者の願いが個別支援計画や日々の支援にどう生かされているか学ぶ。	
第13回目	3, 実習反省会を開いていただき、反省・評価を含めた指導を受け、新たな課題を見つける。	
第14回目	《自分の「支援観」と向き合う》	
第15回目	・向上心を持って子どもと向き合う姿勢を再確認し、新たな課題に取り組む。	
成績評価の方法と基準		
	評価の領域	割合
授業参加態度	100%	実習施設においての評価基準により評価された5段階評価に基づく。2、1の評価は不可に値する(5:優れている、4:やや優れている、3:普通、2:やや努力を要する、1:努力を要する)。
レポート		
調査報告書		
小テスト		
中間・学期末試験		
発表内容 (態度含む)		
その他		
教科書と参考図書		
佐野短期大学「保育実習の手引き」		
履修上の心得・ルール		
保育実習指導Ⅲの授業を必ず履修し、単位取得の成績を得ていること。保育士必修科目の必要単位が取得されていること(不可科目や欠時不認定科目が多数の場合は面談の上実習の延期や辞退を判断する)。実習に臨む態度や意欲を明確に示し、実習施設に対して適切に行動することができること(状況によっては実習延期や辞退も検討する)。		